

NGP、8月の大雨被害を受けて鹿児島、熊本、福岡に専用ヤードを設置

迅速な被災車両の引き上げで、被災地復興を支援

8月6日から全国的に大気不安定な状況が続き、各地で大雨が発生しました。特に九州地方では、鹿児島県と熊本県で大雨特別警報が発出されるなど、甚大な被害が報告されています。

鹿児島県では8日未明から明け方にかけて線状降水帯が発生し、24時間降水量が500ミリを超える記録的な大雨となりました。また九州北部では9日夜遅くから11日にかけて線状降水帯が発生し、福岡県、熊本県では多い所で24時間降水量が400ミリを超える大雨となりました。

消防庁の報告（8月21日時点）によると、今回の大雨による全国合計の被害状況は、死者8人、負傷者25人、住家被害7,914棟に上っています。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、尊い命を落とされた方のご冥福をお祈り申し上げます。

NGPは、九州全域における大雨被害の発生を受け、8月8日に「災害対策本部」を設置しました。そして8月12日より、被災地の復旧及び生活再建を支援するため、数千台に及ぶとみられる被災車両の迅速な引き上げ活動を開始しています。



引き上げた被災車両が並ぶ専用ヤード

損害保険会社の被災車両の引き上げについては、鹿児島、熊本、福岡に構えた専用ヤードを活用し、あいおいニッセイ同和損害保険(株)と連携して対応を進めています。被災車両の引き上げ作業では、NGPが自社開発した「水害車両管理システム」を活用することで、引き上げる車両の依頼状況や回収進捗を保険会社とリアルタイムで共有することができます。これにより、現場からの依頼を受けて、回収・搬入するまでのリードタイムの大幅な短縮が可能となり、二次被害の防止や地域の早期復旧に貢献す

ることができます。

また、車両の引き取り時には、酷暑の中で復旧作業にあたる市民や関係者の労をねぎらうため、ウェットティッシュなどを配布しています。物理的な支援だけでなく、心のこもった配慮も大切にしています。

NGPはこれまでも全国各地で災害が発生した時には迅速に対策本部を設置するとともに、各エリアの加盟事業者を中心として被災地支援に取り組んできました。NGPは被災地の1日でも早い復興を支援するため、今後も迅速に対応してまいります。



被災地を訪れ、メンバーを激励する小林信夫理事長



提携保険会社などからの依頼を受けて、被災車両を運搬



NGPが自社開発した水害システムの活用で、現場作業を効率化

持続可能な社会の実現に向けて、 消費者の皆様とともに歩んでまいります

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は、消費者庁の推進する「消費者志向経営」に賛同し、その実現に向けて「消費者志向自主宣言」を策定しました。

本宣言の内容については、NGPのWebサイトに掲載するとともに、消費者庁の特設ページでも紹介されています。

本宣言で具体的な取組方針として示した「みんなの声を聴き、かついかすこと」、「未来・次世代のために取り組むこと」、「法令の遵守/コーポレート・ガバナンスの強化をすること」に関する活動内容については、今後Webサイトなどで定期的に報告してまいります。



消費者志向自主宣言

理念

私たちNGPは、「お客様第一」を基本理念に掲げ、自動車リサイクルを通じて資源の有効活用と環境負荷の低減を図り、循環型社会の構築に貢献することを使命としています。安心・安全で信頼される取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に向け、消費者の皆様とともに歩んでまいります。

具体的な取組方針

1. みんなの声を聴き、かついかすこと

- ・常にお客様の目線で考え、分かりやすく、誠実な情報提供に努めます。
- ・お客様の声を真摯に受け止め、製品やサービスを継続的に改善します。
- ・廃車買取サービス「廃車王」のサービス品質向上、リサイクル部品の品質向上を実現するために、勉強会の実施や研修を行い、顧客満足度を高め製品、サービスを提供できるように取り組んで参ります。

2. 未来・次世代のために取り組むこと

SDGs宣言・目標を掲げ、サステナビリティを推進する活動に取り組み、社内外に発信します。

【2030年目標】

- ・使用済み自動車約1,000万台から2,000万台以上の自動車リユース部品と適正なりサイクル処理を実施し、50万トン以上のCO₂削減に貢献します。
- ・香川県豊島の産業廃棄物（自動車破砕くず等）不法投棄により失われた自然を取り戻す環境再生活動を行い、環境保全と3Rの大切さを後世に伝える活動を行います。

■活動実績 (<https://www.ngp.gr.jp/sdgs/>)

3. 法令の遵守

コーポレートガバナンスの強化をすること

循環型社会の構築に貢献する組合として、関係法令を厳格に遵守し、高い倫理観と責任感をもって健全な事業運営を行うとともに、組合員と社会の信頼に応える健全で透明性の高い組織運営を行うため、コーポレートガバナンスの強化に取り組めます。

(NGP消費者志向自主宣言 <https://www.ngp.gr.jp/consumer/>)

DIY用にとどまらない 幅広い製品・サービスが提案される

日本DIY・ホームセンター協会（稲葉敏幸会長）が主催する「JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2025」が8月21～23日の3日間、幕張メッセ（千葉県千葉市）で開催されました。生活インフラを支える存在として「いつでも頼れるホームセンタ

ー」をテーマに、一般ユーザー向けの各種工具体験会や事業者向けセミナーなどの各種イベントが併催されました。

各社ブースでは一般ユーザー向けの提案にとどまらず、自動車整備士の作業性を高めるツール類、工場のサービスメニュー拡

大に貢献する製品が数多く披露されました。出展規模は600社1,209小間、3日間の来場者数は66,340人に上り、盛況のうちに閉幕しました。次回は同所にて2026年8月27～29日に開催予定です。



オーディオテクニカ

デッドニングで低音の抜けを防ぎ、重厚なオーディオサウンドを実現するドアチューニングキット「Aquiet(アクワイエ)」は専用工具不要で高い制振性・防音性を獲得できる



スズキッド

半自動溶接機「GENE」が新登場。100V専用インバーター「Arcury120」と200V専用「Arcury160」がそれぞれ展開され、ノンガス・ガス兼用で0.6mmの薄鋼板にも対応可能



武蔵ホルト

ANEST IWATA A.I.R. と共同開発中の充電式エアブラシ「A.I.R. MIX」を展示。コードレスで取り回しが良く、同社の塗料「MINIMIX」を50%に希釈して使用可能



半導体不足も解消し生産が安定化、 31年ぶりに1,400億円超え

日本自動車機械工具協会（機工協、柳田昌宏会長）はこのほど、2024年度自動車機械工具販売実績の集計結果を発表しました。2024年4月～2025年3月の販売実績は1,405億982万1千円で、前年度（1,361億966万7千円）と比べて44億15万4千円（3.2%）増加しました。1,400億円超えは1993年以来で、平成以降では5番目の数字となります。

商品カテゴリー別では、19項目のうち10項目が前年度実績を上回りました。総合計金額に占める割合（構成比）が大きい上位6項目中5項目（リフト・ジャッキ・プレス、車検機器、洗車洗浄装置、自動車総合診断装置、ハンドツール）が前年度実績を上回っており、自動車総合診断装置については100億円に届かなかったものの、調査開始以来過去最高額となりました。

リフト・ジャッキ・プレスでは、工事費用や故障時の修理性が埋設2柱より優れているため、ここ数年、パンタグラフ型が選ばれる傾向が続いています。また、車両の大型化、重量化、EV対応、アンダーカバーの取り外し対応など、幅広い車両に対応する高機能仕様の販売が増えたと見られます。

車検機器では、コンピューター車検システムがコンプライアンス強化や効率化・省力化の取り組みにより、ディーラーを中心に広まっています。また、ディーラーの統廃合や人材不足における省力化対策として、今まで取り組んでこなかったディーラーをはじめとして、専業工場でもシステムの導入が進んでいると考えられます。

洗車洗浄装置では、門型洗車機がESの観点でディーラーやレンタカー事業者での新規、老朽更新は継続しており、また、各社値上げがあったため、駆け込み需要もあったと推測されます。一方、温水洗浄機は

暖冬による影響は多少あるものの、一昨年の微減から微増となり、継続した需要がありました。

ハンドツールでは、絶縁工具の数量が半減しているものの、金額は1.5倍になっており、輸出数量が多いことからセット品を多く海外で販売したことが考えられます。

ブレーキ・ホイールサービス機器では、ホイールアライメントテスターがADAS調整前のアライメント調整への意識から需要が高まっていましたが、一旦落ち着いたため、老朽更新で高機能仕様の購入が増加したようです。

車体整備機器は、金額ベースで前年度比80.0%と前年割れとなりました。内訳ではボデー修正装置の「ベンチタイプ」が前年度比54%減の1億1,119万1千円、「フ

ロアタイプ」が同36%減の2,405万4千円、スポット溶接機も同31.9%減の1億4,437万7千円と軒並み悪化しました。

塗装機器は、同じく金額ベースで83.9%と前年割れ。うち塗装ブースは同0.17%減の10億9,368万6千円と何とか微減にとどまりました。

コロナ禍前以降、新車販売台数は500万台割れが続いているものの、過去5年間は450万台前後レベルで推移しており、保有台数は微増を続けるなど、整備需要は安定的に推移しています。その中で機械工具の販売実績は4年連続で前年を上回りました。充分でなかった半導体の生産が安定し、順調に商品の生産が進んでいること、製造コストや人件費の高騰による価格転嫁の動きも後押しした模様です。

表1 2024年度自動車機械工具販売実績

項目	国内販売金額(千円)	輸出販売金額(千円)	輸入販売金額(千円)	合計金額(千円)	対前年度比(%)
自動車総合診断装置	6,502,309	3,330,979	0	9,833,288	117.7
車検機器	14,438,047	40,191	1,663	14,479,901	101.6
洗車洗浄装置	10,791,637	0	98,160	10,889,797	108.6
リフト・ジャッキ・プレス	24,298,002	140,044	180,116	24,618,162	100.8
(車載用)	71	0	0	71	-
エアコンプレッサー	3,566,807	10	5,605	3,572,422	102.3
空圧電動工具	2,922,697	297	35,182	2,958,176	97.3
ハンドツール	8,946,541	404,832	4,125	9,355,498	102.3
(車載用)	11,569	0	0	11,569	43.9
車体整備機器	1,081,814	4,402	238,961	1,325,177	80.0
塗装機器	1,524,300	3,236	9,381	1,536,917	83.9
バッテリー・クワースサービス機器	4,080,947	1,293	355,450	4,437,690	90.5
エンジン診断用機器	5,506,173	9,262	205,560	5,720,995	96.7
エンジン整備用機器	432,095	2,805	62,503	497,403	95.5
ディーゼル用機器	25,353	18,879	0	44,232	96.1
ブレーキ・ホイールサービス機器	5,454,590	1,463	1,723,947	7,180,000	97.3
(車載用)	53,933	0	0	53,933	134.5
ガレージ用一般機器	5,984,434	7,900	161,901	6,154,235	99.2
注油脂機器	2,297,221	0	18,301	2,315,522	104.2
各種システム	536,319	0	0	536,319	102.3
環境整備機器	704,015	0	162,596	866,611	120.7
その他	33,686,287	472,434	28,755	34,187,476	108.7
総合計	132,779,588	4,438,027	3,292,206	140,509,821	103.2
(車載用合計)	65,573	0	0	65,573	98.6

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量

令和7年7月：

2,062t

※自動車リサイクル部品産業共同研究会在、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含むと115品目）と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量

令和7年7月：

0.5t

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。



NGP組合員である(株)オートパーツ伊地知(伊地知志郎社長、鹿児島県鹿児島市)は7月9日、鹿児島工学院専門学校(同市)の自動車工学科に所属する学生44人を受け入れ、工場見学及び作業体験を実施しました。

当日は、まず座学で同社の業務内容やNGPの事業を紹介し、自動車リサイクル業界がどのように資源循環とカーボンニュートラルに貢献しているのかを説明しました。また、豊島事件の歴史や自動車リサイクル法が成立するまでの経緯について解説するとともに、環境保全・再生活動や環境教育などのNGPの取り組みを紹介しました。

続いて、リサイクル部品の生産工程や

ニブラによる車両解体工程、部品倉庫の見学、部品の取り外し作業の体験を実施しました。参加した学生からは、「自動車リサイクル法のことには知っていましたが、成立までの経緯や歴史を知る機会がなかったため、勉強になりました」などの感想が寄せられており、自動車リサイクル業界の社会的役割やNGPの活動内容について理解を深めていました。

伊地知社長は「自動車整備士を目指す学生に自動車リサイクルの現状を理解してもらうことは、極めて重要なことです。教科書だけでは学べない現場の知識と技術を体験することで、将来の整備士としての知見が広がることを期待しています。また、今回の体験が、自動車リサイクル

業界への関心を高める契機となれば幸いです。当社は今後も学生をはじめ幅広い層の見学を積極的に受け入れることで、リサイクルの重要性を啓発するとともに、地域社会に貢献していきたいと考えています」と、業界の認知度向上に向けた活動を継続する姿勢を示しています。



第20回初級生産管理者・フロントマン研修会を開催 業務の基本と仕事に向き合う姿勢を学ぶ

NGP協同組合は7月15～17日の3日間、BumB東京スポーツ文化館(東京都江東区)で第20回初級生産管理者・フロントマン研修会を開催しました。

初級研修会は、NGPシステムの活用方法など生産管理者及びフロントマンとしての基本を身に付けるためのものです。1日目には、小林信夫理事長からNGPの理念や取り組みなどについて講話を受けました。その中で小林理事長は、「目標を明確にして、日々の業務に取り組んでいただきたい。根拠や方法をしっかりと理解し、明確な数値目標を持つことで、

日々の仕事の仕方も変わってきます。今回の初級研修でも、分からないことがあれば質問し、理解し、最後の試験で100点を取るという目標で臨んでください」と、受講生を激励しました。

3日間の研修を終えて、(株)アイエス総合の佐藤純一さんは「常にお客様にとって最良を考え、お客様第一を念頭に、お問い合わせに対応していきます」と、今後の業務に向けて決意を表明しました。(株)アートパーツ長野の佐原克彦さんは「3日間を終えて、前向きで積極的な考え方を養うことの大切さを学ぶとともに、



“人格を上げる”という話がとても心に残りました。私自身も今後人格を上げることで周囲に良い影響を与えられる、他の人の模範となるようなフロントマンに成長したいと感じました」と、研修での学びを自らの意識を変えるきっかけにしています。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
北陸	有限会社サンシャインネットパーツ	会社代表	代表取締役 北野 宏樹	2025年6月10日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1208 FAX:03-6705-1209
<https://www.ngp.gr.jp/>

株式会社NGP

〒108-0075 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL:03-6705-1212 FAX:03-6705-1201
<https://www.ngp.co.jp/>